



特集
辞書指導と語彙指導



◎実践紹介◎——『ジーニアス英単語2200』

Build Up Vocabulary



川崎洋一

■近年の生徒の変容

本校に赴任して8年が経過したが、学習指導要領の改訂を境に、生徒の英語力、英語学習に対する態度に大きな変容が見られた。感覚的に英文を捉える生徒や、予習習慣が確立していない生徒が増加した。土台となる文法力や語彙力、そして論理的な読解力を習得できていないので、大学入試に堪えるレベルに到達させるためには、英語学習に対する認識の変革から始めて、予習復習の学習方法の指導やチェック、中学レベルの文法の総復習など、きめ細かな指導を余儀なくされた。現在第1学年を担当しているが、特に今年度の生徒は、書いて英語の学習をしようとする態度や、辞書を引く習慣が身につけていない。つまり、語彙力が低く、向上する素養に欠けているのである。テストで高得点を取る生徒でも、takeの過去分詞をtalkedと書いたり、walkとworkの発音を混同したりする。地域ナンバーワンを自負する生徒の所行とは考えられない惨状である。

学習形態として、「暗記中心の反復型学習」→「受動的習得型学習」→「自発的探求型学習」という発達段階があり、難関大学合格のためには、いかに「自発的探求型学習」に移行できるかが鍵であると思う。語彙力や文法力を向上させるための学習は「暗記中心の反復型学習」の性格が強く、本校の生徒はその重要性を軽視し嫌悪する傾向にある。語彙に関しては、入学当初より単語集を採用し、英語I・IIの授業を中心に豆テスト・追試を繰り返すが、生徒はその場しのぎの学習に終始し、語彙力の定着や向上には至らない。文法に関

しても同様であるが、生徒自ら語彙不足を痛感するのは、他の教科や英語の長文読解力の向上のために時間をかけてほしい、つまりもう手遅れではないかと思う頃である。「暗記中心の反復型学習」と「自発的探求型学習」のギャップを、男子校特有のなり振り構わない学習で克服していく生徒もいるが、両者間のアンバランスな学習形態にリズムを崩し、第一志望校に合格できなかつたり、さらに1年の受験努力の継続を余儀なくされたりする生徒も少なくない。

■『ジーニアス英単語2200』の採用に当たって

語彙指導で肝要なことは、語彙学習の重要性を自覚させること、反復、効率性、そしてどの生徒も信頼を置ける最良の単語集を選択することであると考えている。私は本校に赴任する前から、長文の中で単語を覚えていく形式の単語集を採択し、豆テスト・追試を行うと共に、その長文を元にオリジナル長文問題を作成し課題として課してきた。今年度も入学時よりその単語集の初級編を使用し、同様の指導で夏季休業をもって一通り終了させることができた。しかし、生徒の語彙学習の素養の欠如や、長文で用いられている意味しか覚えようとしないう功利的態度と、その単語集の煩雑化した構成（参考語が増加したり、関連語を集めた箇所が増加したりしたこと）から、長年採用し続けたその単語集との決別を決意し、本校の生徒が受験まで安心して頼ることができる単語集の選定に着手した。

選定に当たって最も念頭に置いたのは、①質的

にも量的にも、1冊でセンター試験から難関大学の入試まで対応できる単語が収められていること、②構成がシンプルで、自学も指導もしやすいこと、であった。市販されているほぼすべての単語集を吟味したが、上記の観点から群を抜いていたのが、『ジーニアス英単語2200』であった。

本書は Build Up・Step Up・Jump Up の3部構成になっているが、編集者の苦勞の成果が如実に現れた各部の収録語で、各部を終了すれば、センター試験・難関大・最難関大の長文問題に対応できる語彙力を効率よく習得できる。生徒のレベルに合わせて到達点を設定できるので、教師側は指導が容易で、生徒側もモチベーションが上がると思う。各ページきっちり10個の単語という実にシンプルで学習しやすい構成で、無理なく規則的な学習ができる。見出し語は日本語の意味が赤字であるが、派生語は英語の単語が赤字になっているので、単語を書いて覚える習慣も身につけられる。Genius Pointなどのコラムや〔識別〕〔参考〕などの欄も、重要事項が的確かつ必要最小限に収められており、無駄なことは極力省きたがる生徒でさえ、自然と目が届く。人気が出て改訂を重ねる中で余分なコーナーを増やしたり、カラフルにしたりする単語集が少なくないが、“Simple is best.”、この形を堅持してもらいたい。欲を言えば各レベルに準拠した長文問題集があれば申し分はないが、各レベルの過去問等を解きながら本書で確認していけば、生徒の本書に対する信頼度が高まり、学習意欲はさらに向上するので、その問題も解消されるであろう。

■『ジーニアス英単語2200』を用いた語彙指導

しかし、いかに良書であろうが使用法や指導法を間違えれば悪書となってしまうのは必然である。最大限の効果を上げるために担当教員で検討し、以下の指導計画を立てた。まず長期的目標として、第1学年2・3学期・春季休業で Build Up を、第2学年1・2学期で Step Up を、第2

学年3学期・第3学年1学期で Jump Up を完了させることとした。

具体的指導を Build Up を例にして説明したい。自学により1日10語で週70語を暗記するように指示し、翌週50問（英訳問題20問・和訳問題20問・派生語問題10問）の確認テストを行う。正解率70%を合格ラインとして、不合格者には追試を課す。定期テストの週は課題・確認テストは課さないが、テストの出題範囲に組み込んで、それまで学習してきた部分を総復習させる。このペースで進めれば、冬季休業前に Build Up の1周目を終了することができる。そして冬季休業中に総復習をさせ、3学期始業時に Build Up 全てを対象にした確認テストを行う。3学期は、2学期と同様の指導を行うが、ペースを1日20語で週140語に上げる。春季休業前に全範囲の確認テストを行い、正解率80%に届かない生徒には、春季休業中に特別指導を行う。並行してセンター試験やそれと同レベルの過去問を授業や課題で解くことにより、語彙力の定着と語彙学習の重要性の認識の深化を図る。Build Up の取り組みを元に指導の微調整はあり得るが、基本的には Step Up, Jump Up も同じ方針で指導する意向である。

■おわりに

「たかが語彙、されど語彙」。語彙指導はあまり深追いしてはいけないが、文法と共に、英語学習の基盤をなす重要な部分である。基盤が堅固なものでなければ、その上に立派な城を築いても崩壊しやすいのは自明である。英語の学力を向上させる要因は様々あると思うが、意欲的にコツコツと努力を続けた生徒が確固たる英語力を我がものにできるような指導を心掛けていきたいと思う。指導内容等でお気づきの点があれば情報交換やアドバイスをいただければ幸いである。

(かわさき よういち・群馬県立高崎高等学校教諭)